

津波避難施設住民説明会議事概要（4月29日）

日時 2023年4月29日（土・祝）9：00～10：40

場所 片瀬市民センター 2階ホール

開会の挨拶（AM9：00）

（藤沢市：進行）

説明会の開催にあたり、記録のために写真撮影及び、録音をする旨の案内をし、出席者の了承をいただく。

配布資料の確認。感染症対策のために別紙で用意している、氏名・住所・連絡先を記入する受付票のご協力をお願いを行った。

続いて、市側出席者の自己紹介を行った。

1 説明

（藤沢市防災政策課）

資料1～3の内容について説明。

（藤沢市公共建築課）

資料4～5の内容について説明。

（藤沢市防災政策課）

基本設計を進めていく中で、4月5日付けで西浜町内会から、町内会で実施したアンケートで、現計画の7mという高さに対して不安を感じているという意見が多かったことから、なるべく高さ制限を逸脱しないかつ、限りなく10mに近い高さでの設計を行い、不安の解消に努めてほしいという意見書が市に提出された。

市としては、いただいた意見に対し、真摯に検討を重ねた結果、避難想定人数730人全員が最も高い避難床に逃げることができる高さである7.05mで計画を進めることとなった。

2 質問（AM9：45）

（市民）

市側は説明会を5回実施しているが、5回すべて市民の意見を何も聞かずに、一方的な説明をしているだけ。■■■■■については、これまでの説明会にも出席していない。

これまで1回目から参加をしている中で、すべて不安なことだらけだが、それに対して何か回答をしているのか。今回も市の計画はこうであると説明をしている。どうして住民に寄り添った説明ができないのか。

住民から意見が多く出ていて、議事録の提出を求めても出されない。市側の視点がどこにあるのか。住民のためでなく、市側の立場のためになっている。結局高さの問題について10か月も経っていて、その他の問題に進めていない状態になっている。

今回も市側が勝手に説明を行い、時間がきたらそこでおしまいという方法の連続になっている。結局住民に寄り添ったことはあったか、対話がなぜできなかったのか。非常に不満である。

(藤沢市)

市側が一方的な話をしており、住民の意見を聞いていないという意見だが、何回か説明をしているが、まず最初にコロナ禍の状況も鑑みて、住民に対してはお知らせで意見を伺っている。その中でも多くのご意見をいただいた。それに対しての回答も第1回、2回の説明会で行っている。

また、第1回、第2回の説明会において、皆様から意見をいただいた中で、西浜町内会で集約した10項目の意見をいただいた。これに対しても市側として真摯に検討し、可能なものに関しては、すべて取り入れてきている現状がある。

3回目の説明会については、10項目の意見の中で、基準水位がよくわからないという意見があったため、公表している神奈川県にも説明をしてもらっている。また、基準水位について研究をしている学識者にも市側で意見を確認しており、現在の知見の中で最も確からしいという意見もいただいたことを説明した。

4回目に関しては、これを踏まえて基本構想の成果を説明し、町内会の役員や関係者に対し、都度事前に報告したことを説明している。

これらを踏まえて、皆様の意見を聞いていないということであれば、市側としてさらに真摯に説明をしていきたいと考えてはいるが、一定の説明はしてきたと考えている。

(市民)

説明会にずっとでている。先ほどの町内会の70数%の意見を真摯に受け止めた結果、前回より5cmの高さ上げとなっているが、なぜたったの5cmなのかという説明がされていない。

(藤沢市)

5cmに関しては、水勾配などを入れたもので、さほど上げたという認識はしていない。市側としては皆様の安全安心を確保したいということが第1であ

る。かつ、なるべく早く作りたい。約730人が1番高い位置に逃げる事ができる高さが7mである。

何度か説明をしているが、建築基準法の中で日影制限や道路の斜線制限等が影響してくるため、高さを上げると避難面積が小さくなる。10m未満で建築をしないといけない中で、仮に高さを9.5mほどにすると、避難者数が半分以下になってしまう。市側としては、計画をもって避難者数を出さなければならず、1人あたり0.6㎡と考えているものに対し、0.3㎡でも良いのではという意見も伺ったが、計画をするうえで、約730人全員が避難できる一番高い位置として、7mという計画で進めている。

(市民)

今回説明のあった、アンケートについてアンケート用紙も結果についてももらっていない。町内会を通してお願いをしていたが、この説明会のあとにもらいたい。

また、この施設を作るにあたって、塀で接している周辺の住民は利用者であるとともに、地権者でもあると思うが、そういった方とのコミュニケーションはどうしていく予定なのか。以前は訪問をしていたが、その後はされていない様子なので、今後もしっかりとお願いをしたい。

(藤沢市)

アンケート用紙については、市側はもっていない。

(市民)

アンケートについては、町内会員に配っているもので、実施時に先ほど発言していた方は町内会員ではなかったため、アンケートを届けていなかった。現在は町内会員のため、今後あれば届ける予定である。

(市民)

町内会に入るかどうかは基本的に任意で、辞めた覚えがないのに、会員でないとと言われるのはおかしい。70年ほど住んでおり、町内会の会員で、特に集金にも来られた記憶もない。今の発言はおかしいと思う。非常に恣意的である。21日に会員になったということですが、その後も何もいただけていない。

(藤沢市：進行)

今の話は町内会の話になっているため、その部分は一度置いて、質問があっ

た施設の周りの住人への説明をどうしていくかというところに進める。

(藤沢市)

当初、西浜町内会のBブロック、Dブロックの1軒1軒に説明に伺っており、不在だったところもあるが、何回か足を運んでいる。現在は回覧やお知らせで周知をしていたところだが、Bブロック、Dブロックの方が7mでは不安があるということをプロジェクトのアンケートから承知したので、今後、町内会と相談をしながら、別の場所で、会を設けてさらに詳細に説明していきたい。

また、個別でも聞きたいことがあれば、こちらがご説明に出向くため、市役所防災政策課の整備担当まで連絡をいただきたい。

(市民)

繰り返しになるが、人命を確保するための施設をつくるのか、収容人数が多い施設をつくるのか。この議論がいつまでも変わってない。東北のほうでも、市の庁舎、消防本部、病院、学校、津波避難施設などがたくさんあって、実際にそこが安全だと思って逃げたにもかかわらず、高さがなかったために津波に飲まれていた。今回つくるものも、人命を何人かでも助けるための建物であるならば、高さが絶対必要である。733人入るが全員流されました、ではなんの意味もない。だから法令や条例や建築確認などの条件があると思うが、そういうものを理解して、高いものを建てて、収容人数が減った。こういう条件だが納得していただけるか、という提案をすべきではないか。

733人が全員常にそこにいて、津波を待っているわけではなく、それぞれの生活があって散らばっているため、733人が絶対ではない。命を助けるための施設だから、高さをどうやってつけるのかを条件として考えてほしい。

(藤沢市)

約730人に関しては、まず下藤が谷ポンプ場で計画をしていた際、避難者数が250人であり、残りの500人をどうするかという話があったため、そこから違うところを考えていくというところで、土地を使って良いという方がいたため、皆様の意見も聞きながら、新たに避難施設をつくっていかうと計画したものである。

また、東日本大震災を経て、高さをなるべく高くしなければならないという不安を感じていると思うが、そういった今までのことや状況を踏まえて、神奈川県や国では、高さの見直しをしている。それに加えて藤沢市では、緩衝空間としてさらに3.6mの高さを足している。高くすればするほど良いものでは

なく、法の基、あり得る最大なものを考え、その中で一番高い位置で計画しているので、ご理解いただきたい。

(藤沢市：進行)

避難施設の有効な高さについて説明をしましたが、有効な高さについて質問のある方はいますか

(市民)

最初から、避難施設を早く作ってもらうようお願いをしているが、先ほどの説明で、いかにも下藤が谷ポンプ場が250人しか避難できず、残りの500人はどうするかと言われたため、と伺ったが、大変心外である。当時どうするのかと発言した張本人として、そのときにどうするのかと発言した次に、250人でも良いから命が守られる施設を作ってほしいと発言をしたが、すり替えられていた。

また、高さ7mが最大の安全ということだが、どうも人の数の方に最大がいつてしまっていて、命を守るというほうから抜けてしまっているように感じる。最大の狙いは命であり、津波が来た際に命をどう救うかになる。下藤が谷ポンプ場では10m以上高さがあったが、その時は10m以上必要だと思って計画しているはず。それなら現在の場所でも10mつくることができる。というように、説明が市側に都合の良いところばかり勝手にくっつけて、最も大事な住民を守るという視点が抜けている。用途制限など法律があるだろうが、果たして命に代えても守らなければいけないものなのか。そのために多くの命が失われるとしたら、まったくもって逆転している。他にも言いたいことはあるが、事実関係を勝手に変えないでほしい。

(藤沢市)

下藤が谷ポンプ場については、実施設計まで行っている。回覧で意見を聞いたところではあるが、約1,000㎡の土地があるため、そこに対して避難施設の提案いただいたことで、今回の方を先行して、なるべく多くの人数の避難を図っていくという計画で進めている。これについては、回覧での説明を実施しており、議会報告も行っている。

また、7mという高さで計画をするうえで、国が基準を出しており、地盤高3.4mで安全であるとなっている。そこに対して市側でさらに3.6mを足すことで、安心をはかっている。その中で730人全員が避難できるのでさらに良いという発想で計画しているので、理解いただきたい。

(市民)

結局市は良いところ取りをしているだけ、都合の良い時だけ町内会長。住民は県みたいな分析力は持っていない。実際に持っているのは東日本大震災の10m以上の高さの数字であって、浸水深という言葉は1度も出てきていない。浸水深は落ち着いた状態のときの話であって、命の問題のときに、なぜ最大の津波高ということで論じないのか。東日本大震災以外の過去の事例を見ても、チリ沖地震、奥尻島地震などでも死者が出ている。

134号線があるからとか、小田急線のところでなくなるとか、非現実的な話を聞いたところで、納得はしない。役所は責任をとらないのだから、せめて住民に寄り添うべきである。

(藤沢市)

最大津波高については、資料にもあるとおり11.5mとしている。これは東日本大震災を踏まえて、今まで起きた地震を検証し、さらにこれまでは短期で発生する可能性のある地震のみで予測をしていたが、2000年、3000年あるいはそれ以上の期間で起こるかもしれない地震をも想定したうえで最大津波高を設定しており、そのうえで計画をしているため、ご理解いただきたい。

(市民)

11.5mの津波が海岸に到達する際になぜ8.8mになるのか。チリからの津波もそのままきている。海岸に近いほど波の高さがあがる。そういう一般的な理屈でわからないものを、県や学者がと言われても納得できない。一般市民を説得させる資料を用意すべき。

(藤沢市)

話にあるとおり、江の島や西浜で津波がどの程度の高さになるかすべてシミュレーションされている。これは鵜沼や周りから水が回って流れてくることもすべて計算されたうえでシミュレーションされている。本日の説明会の前に流れていた映像や、YouTube、お知らせのQRコード等でも確認いただけるものとなっている。

(市民)

水は全部均一に流れてくる。鵜沼から入ってくるものも、134号線からのものも、そこに留まることはなく、すべて浸水してくる。

(藤沢市)

それも計算されている。

(市民)

理解できない。

(藤沢市：進行)

挙手のうえ、質問、意見をお願いします。他にいらっしゃいますか。

(市民)

1回目の説明会から出席をしているが、1回目では高さがどれくらいまでできるのかといった話に対し、10mまでというように聞いていたので、できるだけ高くと思っていた。しかし、説明会ではずっと7mで、住民の意見も考慮して検討すると言われていたため、今回の説明会も出たところ、5cmしか上がっていなかった。これはもう決まりで、意見を出しても変わらないものなのか。

また、今まで高さは地面からの6mだったところが、9mになって増えたのかと思っていたところ、そうでなかった。

そして、2000年から3000年こないとあるが、これを配布するなら、何のために避難施設をつくるのか。地震は誰も予知ができないものなのだが、もし明日来てしまった時のために、施設が必要であるのに、2000年から3000年こないといって安心させることは違うと思う。

(藤沢市)

7mが決定かどうかについては、西浜町内会の意見をいただいた中で、市としても検討をした結果、7mで計画をしているところである。

(市民)

それは変わらないのか。

(藤沢市)

市の考え方としては7mで進めていきます。

さらに、2000年～3000年という数字については、国から公表されているものになる。いつどこでどのような地震がくるのかはわからず、2000年～3000年だから大丈夫ということでもなく、起こり得る最大の数値をもって出しているという状況となる。

(市民)

今までこれは資料としてついていなかったはずだが、今回からのものなのか。

(藤沢市)

これに関しては、すべて藤沢市のホームページ等で公開しているものになる。

(市民)

町内会から4月5日にお願した内容に対する、市の考えは伺った。町内会として、Bブロック、Dブロックに住んでいる住民にとって、昼夜問わず、全員が避難できるものを早急につくってもらうことが第一意義である。ほかのAブロック、Cブロックと同様に、とりあえず全員が避難できるものを確保してもらうことをクリアしてほしい。

また、アンケートの結果において、不安を抱いている住民の方がまだいるため、さらにわかりやすい説明をしていただきたい。

(藤沢市)

資料1にも記載があるとおり、市としては意見を踏まえ、全員の方が安全な7m以上の高さに避難できるように進めていきたいと考えている。

また、アンケートの結果において、不安があるという意見もいただいており、わかりやすくかみ砕いた説明の希望もいただいているため、丁寧に説明をしていきたいと考えている。

(市民)

以前、西浜町内会の津波避難マニュアルを作成した際も参加をしている。当時の基本的な考え方として、片瀬山に避難するという考え方だったが、現実的に命を守るために、大規模な避難施設を1つ作るのではなく、小さいものを分散してつくり、施設までの時間と距離を短縮することが大前提となっていた。市側の話を聞いていると、1つの大きいものをつくることを大前提と思い込んでいるようだが、それは効率的ではない。基本方針をそこから見直し、多少避難人数が少なくても、より命の安全の確保がされる可能性の高い、より高い建物をお願いしたい。これで終わりではなく、ほかにも何か所も計画してほしい。